

レバノンフランス委任統治領、キリスト教徒とイスラーム教徒の関係、
ベイルート駐在アメリカ領事館、1920-1941年 米国国務省旧蔵資料
**The French Mandate in the Lebanon, Christian-Muslim
Relations, and the U.S. Consulate at Beirut, 1920-1941**

本コレクションは、ベイルート駐在アメリカ領事館と国務省の間で交わされた書簡と電信を収録します。収録資料は、アメリカ国民の保護、貿易、船舶、移民等の領事館の通常業務を超え、1925年のドルーズ派の反乱、キリスト教徒、マロン派、イスラーム共同体の間の三つ巴の紛争、フランス軍による鎮圧、フランスが推進したベドウィンのシリア定住政策、民族主義団体と反乱、反シオニズム運動、都市と農村における暴動、1936年のフランス・レバノン条約の失敗、1939年のシリアにおける新しい委任統治領の形成、シリア独立に対するパレスチナの見方など、広範囲の主題に及びます。

- ◆ 収録期間: 1920-1941年
- ◆ 収録資料の規模: 9,112images
- ◆ 原資料所蔵機関: 米国国立公文書館
(米国国務省旧蔵)

